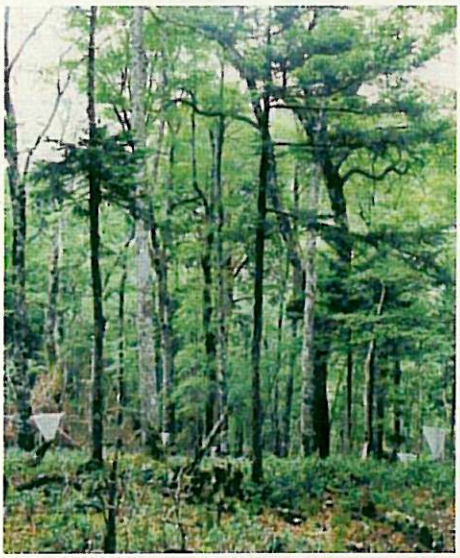
資料３－３

西大台における自然環境の現状と課題

■相対的に良好な森林が残っており、原生的な雰囲気を保っている。

西日本でも貴重な平洋型ブナが優占する冷温帯性広葉樹林がまとまって分布している地区である。

また、利用密度は低く原生的な雰囲気を体験できる地区である。



（右写真：西大台の森林の状況）

⇒　森林の衰退の兆候がみられる

自然再生推進計画では大台ヶ原の植生を７つのタイプに区分し、西大台に典型的な「タイプⅥ」、「タイプⅦ」についてはいずれも樹冠を構成する樹種は比較的健全であるが、後継樹がほとんど生育していない点で森林の更新過程に問題が生じていると評価している。

また今年度実施した樹幹着生の蘚苔類調査では、乾燥耐性の強い種の侵入が確認されている。

◆タイプⅥ（ブナースズタケ密）→損なわれている過程：「後継樹」

・林冠構成樹種の種子散布がある。

・後継樹はほとんど生育していない。実生は生育しているが少ない。

・下層植生はスズタケが優占しており、スズタケの稈高が高い。

◆タイプⅦ（ブナースズタケ疎）→損なわれている過程：「後継樹」

・林冠構成樹種の種子散布がある。

・後継樹はほとんど生育していないが、実生は生育している。

・下層植生はミヤマシキミが優占しており、スズタケはほとんど生育していない。

（右写真：タイプⅦの森林）

■登山道として整備されている歩道は洗掘等の影響を受けやすい

◆西大台の登山道の洗掘状況

利用圧増加による影響を受けやすく、既に歩道の洗掘や複線化、休憩に利用される場所での下層植生の衰退、裸地化などの影響が確認されている。

（写真：複線化の事例。洗掘により歩きにくくなった区間に多い）

◆吉野熊野国立公園管理計画書における位置づけ（関連部分を抜粋）

＜保全方針＞

○東大台地区のトウヒ林

「当該地区に集中する利用者による自然への影響を軽減するため、周辺環境との調和を図りながら歩道等既存施設の充実と利用者に対する普及啓発を図る」（関連部分を抜粋）

○西大台地区のブナ林

「多数の利用者が入り込むことのないよう、積極的な施設の整備は行わない」（関連部分を抜粋）

＜公園事業取扱方針＞

○西大台の歩道は、登山道として整備する。

○東大台の歩道は、自然観察路として必要な整備を行う。

■現況においては利用密度が低いが利用者増加のおそれがある

現況においては自然観察路として整備されている東大台に利用者が集中しているため、①駐車場を起点に日帰り利用ができること、②自然体験の場としてポテンシャルが高いこと、③すでに旅行社のバスツアーが増えていることなどから、今後利用圧が増加する恐れがある。

◆旅行社ツアー等の実施状況

1．インターネット、チラシ等への掲載情報（※）

・平成17年は大台ヶ原全体で23団体（旅行社15、交通事業者4、自然学校1、自治体1、その他2）により231件のツアーが企画されている。

・西大台を対象としたツアーは全体の22%、51件あり、このうち28件が9～11月に集中している。なお、9～11月の件数は平成16年と比較して増加している。

表1：季節別・曜日別のツアー開催回数

コース	平成16年度			平成17年度			
	西大台	東大台	計	西大台	東大台	不明	計
春(4～6月)				8(7)	62(41)	6(5)	76(53)
夏(7～8月)				15(8)	31(16)	0(0)	46(24)
秋(9～11月)	16(5)	50(21)	65(27)	28(15)	75(43)	6(6)	109(64)
計	16(5)	50(21)	65(27)	51(30)	168(100)	12(11)	231(141)

※インターネット、チラシ等への掲載情報を定期的に記録・集計したものであり、大台ヶ原を対象とした全ての企画を網羅するものではない。

※（　）内は土日祝の開催回数を示す。「不明」は東大台、西大台の明確なコース標記が無かったもの。

※人数不足や天候等によりツアー不催行の可能性が考えられるが、全て実施されたと想定して集計している。

2．ツアーバスの入込台数

・平成17年7月～11月の調査では合計323台、1日平均2.1台のツアーバスが記録された。

・ただし、ピーク時の集中度が高く、最大ピーク時（H17.10.15）には1日に24台のツアーバスが記録されている。このうち、西大台を対象とするツアーが22%であったと仮定すればピーク時には1日に5.3台のツアーバスによる入込が推計される。

表2：季節別・曜日別のツアーバス台数

	土日祝		平日		計	
	台数	平均	台数	平均	台数	平均
夏(7～8月)	51	2.7	26	0.6	77	1.2
秋(9～11月)	155	2.4	91	3.6	246	2.8
計	206	2.5	117	1.7	323	2.1

※調査期間は平成17年7月1日～11月7日（11月後半データ未入手）の延べ151日である。

※平均は、当該期間のバス総数を述べ日数（土日祝、平日別）で割ったものである。

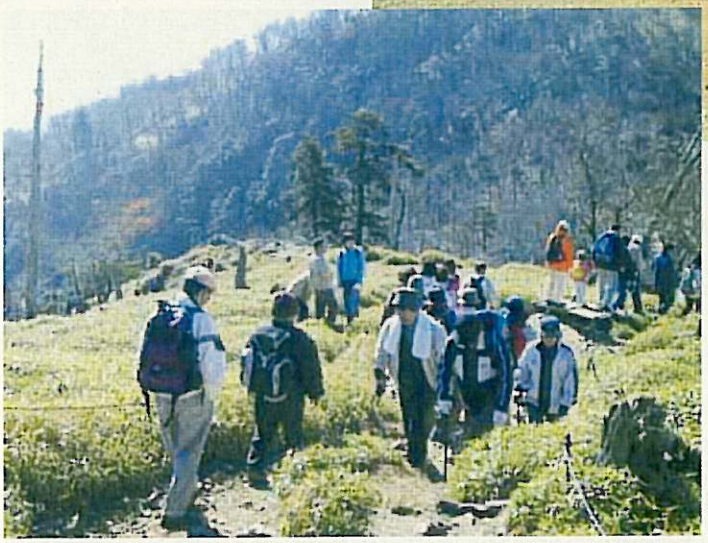
■森林生態系に影響を及ぼす恐れの高い行為がみられる

歩道外への立入り、定められた歩道以外のルートからの立入り、ペットの持ち込み、ゴミ不法投棄等の行為が確認されているほか、現地の状況に精通している複数の関係者から動植物、魚類の盗採の行為についても指摘されている。

（写真：㊤写真撮影のために歩道外に立入る例。㊦ペットの持ち込み例）

■利用者の増加により喧騒が持ち込まれ、享受できる自然体験の質が低下するおそれがある

◆ピーク時の東大台の林内



◆西大台利用者による団体利用者への意見

○大きな団体は来て欲しくない。東大台のような観光地化は反対（旅行会社のツアーは反対）
○10人程度のグループまでに押さえるべき。大きな団体はリーダーの目が行き届かず、マナーが悪くなりがちである。
○大型観光バスはやめて欲しい。団体客には困っている。行動が重ならないようにしている。（夜中に来て朝8:00ぐらいに帰るパターンが多い）
○団体客の入山を禁止すべきである。10人が限度だと思う。ガイド同伴もいいことだと思う。

＊西大台利用者へのヒアリング調査（平成16年5月22日、23日、対象者23人（グループ））